

## 書 評

今さら聞けない とよけん先生の  
カメラメカニズム講座

著者：豊田堅二

発行：日本カメラ社 2017 年 5 月

当会で副会長などの要職を務められ、おなじみの方も多い“とよけんさん”こと、豊田さんの新著をご紹介したい。おなじみと書いたが、そうでない方も当然いらっしゃるの、まずは定石通り著者の紹介からはじめさせていただきます。

豊田さんは、長年、カメラメーカーに勤務され多くの製品の開発に携わってこられた。メーカー在籍中から執筆活動にも取り組まれ、たくさんカメラメカニズムに関する単行本や雑誌記事を書かれている（当初はペンネームで活躍されていた）。さらに複数の芸術系大学で関連する講義も担当されてきた。カメラ技術全般を体系的、包括的、かつ正確に語るができる第一人者と言って間違いなだろう。

そんな、とよけん先生の講義をぜひ聞いてみたいという声も多かったそうで、それにこたえるべく執筆されたのが、月刊日本カメラ誌に掲載されていた連載講座だったとのこと。今回3年分の連載をまとめて誕生したのが本書である。

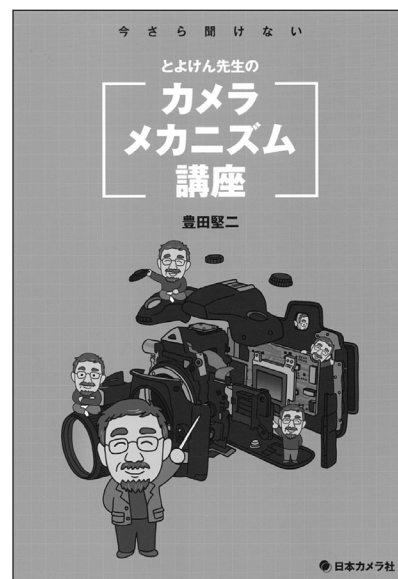
どんな分野でもそうだと思うが、技術的な内容をわかりやすく簡潔に説明するのは、じつに難しい。わかりやすく詳細に書こうとすると文章が煩雑になり、かえってわかりにくくなってしまうこともある。用語だけを並べた表面的な説明に終わっているケースもよく目にする。その点、豊田さんの説明は、いつもバランスがよく、わかりやすいと感心させられてしまう。ご経歴からもわかるように、技術の本質を理解された豊富な知識と、学生さんをはじめ多くの方に実際に説明されてきたご経験がものを言うのだと思う。

本書でもその点はもちろん、技術の本質を薄めることなくわかりやすく書かれている。本文に登場した用語の意味が、図の説明を読めば判るように構成されている部分など、読みやすさと詳細な説明がうまく両立させてあり、さすがと感じた。図や写真が豊富なことは、どのご著書でもそうだが、本書ではすべてカラーで一段とわかりやすい。さらに、おそらく実際に授業で出た質問だと思うが、質問と答えをまとめた小コラム“授業後の質問コーナー”がいくつも配置され、効果的に説明が補足されている。表紙に登場する、とよけんさんを知る人なら思わずニヤリとしてしまう人物イラストは、本文でも随所に登場し、楽しく、とっつきやすそうな雰囲気を出してくれる。

評者は、以前カメラメーカーに在籍し新人研修等も担当していたが、その際、推薦できる参考書として豊田さんの別のご著書を紹介していた。本書も写真関連メーカーの新人、若手の方にぜひお勧めしたい。また、包括的に書かれているので、ベテランの方でもあらためて読んでみると、あれ！ここはこうだったのかと思う部分が少なからずあると思う。まさにタイトルにある“今さら聞けない”立場の方にも大いに役に立つだろう（立場上、あえて詳細は隠しておくが、じつは評者にも1か所あった・・・）。

もちろん、一般のカメラユーザーにもお勧めしたい。撮影者の思いや印象をよりの確に表現した写真を撮ることが目標、ゴールとするならば、カメラのメカニズムを知ることは、そこに到達できる有力な道のひとつになる。本書のまえがきには、カメラは単なる道具で使いこなすもの、それに振り回されては悔しいとあり、評者もまったく同感だ。

以上、本書は、間違いなくお勧めできるものだが、ここが“書評”欄で、評者もあまのじゃくということで、強いて残念なところも探すと、デジタルカメラ内部の画像処理に関する記述が、やや少なめなところだろうか。もちろんホワイトバランスなど実用上重要なことはしっかり書かれているので心配はいらない。連載時の分量など事情があったのかもしれない。他にもまだまだネタはお持ちのはずなので、ぜひ続編による補講も期待したいところだ。もっとも、評者も含め今後を引き継ぐべき世代に活躍できる場を残しておいてほしい気も正直してしまう。それくらい豊田さんが書くとい本ができあがってしまうのが悔しいところでもある。

カメラ・写真技術解説家  
水口 淳